

幼児とのかかわりを考えるシリーズ

監修：文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課

このシリーズは、幼稚園の新規採用教員研修用の資料として、文部科学省幼児教育課が監修に当たり作成されたものです。

ビデオ10作品をシリーズA(4作品入)・B(3作品入)・C(3作品入)の3枚に収録し、研修用としてより使いやすくしました。

●一人一人に応じる指導を身に付けるために

この資料ビデオは、幼稚園生活の中で教師が幼児とのかかわる姿をありのままに記録したもので、教師と幼児とのかかわりを考えるきっかけにするために、保育の中で最も基本的なものと思われる場面を取りあげています。研修の課題に応じて必要な場面を取り出して活用できるように、事例はそれぞれ独立した構成となっているのが、このビデオの特徴です。

いずれの作品も、一人一人に応じる指導の在り方を身に付けるための手がかりが得られるように考えられています。

●保育を振り返る手がかりに

教師のどのようなかかわりが、幼児のどのような行動を生み出しているのでしょうか。ビデオの画面を繰り返し見ながら考えてみましょう。

その際、幼児の表情や言葉から幼児の思いや実現したいと思っていることなどの理解を深め、幼児がものとのかかわりや人とのかかわりを深めるためにはどうしたらよいかを具体的に考えることが大切です。

ビデオを見た後で、様々な人と話し合うことは、実践する力を高めるために役に立ちます。幼稚園の同僚や先輩、新規採用教員の指導を担当する指導者の先生などと話し合う中で、今まで気づかなかった多くのことがはっきりしてくるでしょう。その際、このビデオの画面に映し出された教師と幼児のかかわりを単なる批判の対象として見たのでは、研修の意味は失われてしまいます。ビデオを見ながら、それぞれの場面に自分自身が直面したと想定して、どうしたらよいかを考えてみるのが大切です。

販売価格●全3枚セット価格
110,000円(税抜100,000円)

シリーズA	44,000円(税抜40,000円)	IWE015D
シリーズB	33,000円(税抜30,000円)	IWE016D
シリーズC	33,000円(税抜30,000円)	IWE017D

個人貸出/館内・館外無料上映/団体貸出可

【企画・制作】岩波映像株式会社 【著作・販売】株式会社サン・エデュケーショナル

①新しい先生とともに 4歳児 20分

92

保育は、幼児理解にはじまります。幼児とのかかわりに戸惑う場面を通して、幼児理解の在り方を考えていきます。《一日のはじまり》《けんか、ケンカ》《遊びの中で》《かたづけ》《お話の世界へ》の5つの場面で構成。

②はじめての幼稚園 4歳児 21分

93

登園、かたづけ、お弁当など、毎日の園生活で垣間見る幼児の思いにふれながら、その指導の在り方を考えていきます。《なんで泣いているの?》《もうおしまい》《お弁当の用意》《「あげちゃだめなの?」》《みんなで一緒にやろうよ》の5つの場面で構成。

③こんなことがおこったら 4歳児 22分

94

園生活で起る様々な出来事は、いずれもが幼児の発達にかかわる大切な場面です。生活の中で育つ姿やそのための援助を考えていきます。《なかよくあそぼうよ》《うわあ水びたし》《いっしょに読めばいいじゃないか》《まってあげるからね》の4つの場面で構成。

④新しい生活がはじまって 3歳児 20分

95

幼児の目には、園生活がどのように映っているのでしょうか。新しい生活が始まって戸惑う幼児の姿から、幼児とともに園生活のリズムをつくり出すということを考えていきます。《カバンじゃまでしょ?》《こまったね》《ちょっとまってね》《どうしたの?》《あしたまでとっておこうよ》の5つの場面で構成。

⑤せんせい、見せて 4歳児 20分

96

一人一人に応じていくためには、幼児一人一人のやっていることに温かな関心を寄せながらその思いを受け止めていくことが必要です。ある教師の二人の幼児とのかかわりを通して一人一人に応じる指導の在り方を考えていきます。《何がやりたいの?》《みんな、聞いて》《気づかなくてごめん》《シュンちゃんもやる?》の4つの場面で構成。

⑥だって、やりたいんだもん 4歳児 20分

97

幼児一人一人が、その子らしさを発揮していくためには、温かな雰囲気のある学級をつくり出すことが大切です。友達との出会いから始まる暮らしづくりを考えていきます。《先生に言って》《泣いてたらわからない》《ケンタくん、どうぞ》《シュンちゃん、乗る?》の4つの場面で構成。

⑦せんせいは、トオルくんとつきあってるんだよ 4歳児 22分

98

幼児の話に最後まで耳を傾け、行動を見守るといふ、教師としてのかかわりは、幼児との信頼関係を築き、充実した園生活をつくり出すことにつながります。幼児が語りかける言葉から、その心の揺れ動きを受け止め、幼児とのかかわりを考えます。《ぼく、ゴジラだよ》《トオルくん、何にもいらない》《遠足、どうだった?》《トオルくんもピクニックごっこしたらど?》の4つの場面で構成。

⑧ふたりだったらチョーさみしそう 4歳児 24分

99

幼児の主体的な活動は友達とのかかわりの中で、より豊かになっていきます。幼児一人一人の心を受け止め、幼児同士のかかわりを深めながら、一人一人のよさを生かす指導の在り方を考えていきます。《ぐちゃぐちゃになっちゃうよ》《ついてくるな》《どうやってつるの?》《ずるい ずるい ずるい》の4つの場面で構成。

⑨ここだからね せんせい 5歳児 22分

00

幼児の主体的な活動を促すためには、幼児一人一人の思いや願いを受けとめ、それにそって教師が様々な役割を果たすことが必要です。幼児理解に基づく保育について考えていきます。《みんなの好きな名前がいいです》《動物つくってるからごめん》《かわいいね》《レジあるよ》の4つの場面で構成。

⑩アリちゃんはアメリカへいっちゃったの ～3歳児・5月の生活～ 3歳児 21分

01

園生活に慣れ、安定した気持ちをもって生活するようになるためには、幼児一人一人の心の動きにそった教師のかかわりが大切です。入園当初の3歳児の姿から、幼児理解に基づく保育について考えていきます。《アリちゃんは何?》《お弁当が泣いてるよ》《片づけられない》《ヨウタのだんご》《ママのところへいく》の5つの場面で構成。

